

かけがわの森から

掛川市森林組合通信



2023年春号 Vol.63



新しい学び方で、 農林業の「実学」を身につける。

令和二年、静岡県は全国で初めて農林業のプロを育て
「農林環境専門職大学」を磐田市に開学しました。
栽培・林業・畜産の3コースを有する守備範囲。
実習や演習を重視した本格的な職業教育。
私たちの地域には、多彩な農水産品があり、
古くから継承された木造文化と林業があります。
「地域を支えるリーダーに」との学長の想いに応えるように、
短期大学部卒業式には頼もしい笑顔があふれていました。

榛村航一 組合長の 元気もりもり(森・森)通信 31



「どうするなら」の里

「清い川の流れる一つの文化である」前組合長の榛村純一がよく使っていたフレーズです。清流があるだけで、優れた文化と自然教育の資源をもっているという事です。今、都市において子どもたちが川に飛び込こんで遊べる川はほとんどありません。掛川市内では原野谷川上流の原泉地区が、象徴的な清流の里です。この清流の里に整備されたのがキャンプ場「ならこの里」です。当初原泉地区住民の皆さんには土地譲渡など多大なる協力をいただきました。そして、「森の都」として林業構造改善事業の森林総合利用事業を基に、昭和55年から平成6年までの間に約4億4,600万円が投資されました。

森林浴ならここ、キャンプ場ならここ、自然教育ならここ、川遊びならここ、温泉ならここ、という沢山の思いを込め「ならこの里」と命名され、掛川市の福祉・文化・教育の振興を図るために、極めて公益性の高い生涯学習施設となっています。

このように、行政と地域と森林組合が長い間スクラムを組み、共に築きあげてきた中山間地域振興の基軸となる施設である「ならこの里」を、掛川市は市有財産を減らすことを主目的に策定した公共施設再配置方針に基づいて民間譲渡する方向で進めています。これは、40年以上もの長きにわたり醸成された地域との結びつきを断ち切ることになり、掛川市の「清流の文化」を維持していくためにも、この方針を森林組合として簡単に受け入れることはできません。

民間経営は、当然のことながら利益が優先され、中山間地域の振興という公益的視点は後回しとなることは必至でしょう。そのため、当組合は日本に誇れる第3セクターとしての経営の継続をお願いするべく、本年2月10日、「第3セクター」「株式会社 森の都ならここ」の継続を求める陳情書を掛川市長へ手渡しました。今後、掛川市がどのような判断を下すかは予測できません。しかし、民間譲渡の判断がなされたとしても、当組合としては「清流の文化を守り続ける」ために、何らかの形で森の都ならこの里の経営に関与していかなければならないと考えています。

「これいい!」 購買担当「リエさん」の オススメGOODS!!

● 苗木の保護カバー
(ポール・止め具・杭のセット)
くわんたいII

(Lサイズ)1セット ¥1,100 (税込)

苗木一本一本に被せ、シカやカモシカの食害を防ぎます。クヌギ・コナラ・クリ・その他果樹にもご利用いただけます。

森林組合の現場でも利用する山のプロ仕様! しっかり守れる ロングサイズ。190cm



● ピンク識別テープ
(幅5cm×200m巻) ¥682 (税込)
蛍光色で長持ちする、農業・林業など目印用テープ

最近、人気です!



組合員さまへのお願い

相続等で所有山林に異動が生じた際は森林組合へご一報ください。



KAKEGAWA
Forest Owner's Cooperative

発行元

掛川市森林組合

〒436-0335 静岡県掛川市大和田320-1

TEL.0537-25-2111 FAX.0537-25-2113

<https://www.kakemori.jp>



同席したメンバーと一緒に



農林業は、太陽と水と土から価値を産み出す産業。実学として農林業を学んでもらい、地域を支える人材を育みたいと思います。

2023年3月、静岡県立農林環境専門職大学へお邪魔しました。この日は卒業式。新たな世界へと羽ばたく卒業生を見送った鈴木学長に、改めて本大学の目指すところをうかがいました

この度はご卒業式の挙行、おめでとうございます。

鈴木…2020年4月に開校後、短期大学部は2度目の卒業式でした。今年度は86名の学生が、農・林畜産等、多様な「農」分野を修了し、現場へと旅立っていきました。卒業生の川瀬さんは4月から当組合に就職します。彼をはじめ、専門職大学と森林組合はインターシップや企業実習でのつながりが深いです。

鈴木…本学は「臨地実務実習」と呼ばれる超長期インターンシップをはじめ、授業全体の3分の1が実習や演習と、現場で過



CLTを活用したキャノピーを迎える

鈴木…即戦力に加えて、実学の先で学生には経営についてまで視野を広げ、いずれば産業を支える立場になつてもらいたいという思いがあります。そのために大学内だけで学びを完結させず、インターンを受け入れてくださる企業や組織と協働し、共に未来に活躍する人材を育てていくような、新しい学びの枠組みを作っていきたいと思っています。私が子どもだった昭和30年代ごろ、農業人口は1200万人でしたが今は130万人と言われ、大きく減少しました。

鈴木…高度成長期から第2次第3次産業が増加したためです。時代の流れです。一方で農業は生きるために必要で重要産業であることは今も変わりません。もちろん林業も。世の中の流れが変わっている今、農業も林業もビジネスとして成立させる人材を育てることが本学の使命です。

鈴木…昔は農家出身の学生は多く、そういう傾向でした。しかし今は経営という観点からすると、農家、林家でなくても、経営体に

鈴木…近年農業や畜産業の世界は6次産業化が活発になるなど、

生産者とマーケットの距離が近づいています。一方、林業は植林から50年経ってはじめて成果が見える、長期的にマーケットを見据える力が必要になります。いかにしてマーケットとの距離を近づけるかが、本学としての今後の大きな課題です。ぜひ森林組合など現場の方々にもご意見をいただきたいと思っています。

鈴木…森林組合としても、学びの現場、活躍の現場として、静岡県内の林業を支える学生を応援してまいります！



静岡県立農林環境専門職大学 学長 鈴木 滋彦さん 聞き手：尾崎・宮内・伊達（編集委員）

コラム・美林掛川へ 経営計画課主任須藤 翠さん 造林地の獣害対策とその効果

当組合では森林の循環施策を進めており、7年前から小面積皆伐と再造林による森林の世代交代（更新伐）を行っています。

また、獣害対策資材はコナラ・クスギなどの広葉樹にも利用できます。写真③は植栽後3年のコナラで樹高は2m程度となっています。

本 施 業 を 始 め た 当 初 は、ど の くら い 獣 害 被 害 が あ る の か 確 認 す る 必 須 が あ り ま し た。

写真①ヒノキ



写真①は獣害対策なしで6年経過したヒノキになります。思った以上に被害はひどく、毎年被害を受け続けて盆栽状態で、樹高も80cm程度にとどまっています。

写真②は同年に筒状防護資材を設置したヒノキになります。こちらの方は多少の被害は受けましたが、巡視点検により順調に成長しています。現在の樹高は4〜5m程になっています。

この通り、対策無しでは、カモシカやヤブシカ等による被害により苗木は成長できません。しかし、苗木に獣害対策資材を設置すればしっかり成長してくれます。

試験的に盆栽状態のヒノキに改めて筒状対策資材を設置すると設置後2年ほどで2m弱ほどに成長しました。



写真②ヒノキ



写真③コナラ

トピックス

掛川駅構内ビジターセンターに掛川市産FSC備品設置

流通販売課



農林中央金庫さんと協力し、掛川市にFSCのイスやテーブル、カウンター等を寄贈しました。これらは掛川観光協会さんが運営する掛川駅構内のビジターセンターに設置され、掛川駅利用者へのおもてなしの一つとして活躍します。素敵な木の空間ができています。掛川駅をご利用の際に覗いてみてください。

森林組合監査士合格

総務経理課

流通販売課主任の宮内貴志さんが、全国森林組合連合会の難関、森林組合監査士試験に初チャレンジにて合格しました。（令和4年度 受験者112名、合格者29名）試験内容は、監査士に必要な会計学、監査理論、森林組合監査の実務、法規、協同組合論、森林組合論、簿記と多岐にわたります。宮内さんは、「今後も学んだ事を業務へ活かしつつ、組合員の皆様のため、より一層精進していきたいと思えます。」と話してくれました。

森町森林組合さんとの業務提携研究会はじまる

昨年の総会にて承認をいただいた両組合の委員による「業務提携研究会」ですが、これまで4回の会議を実施いたしました。森林・林業をめぐる情勢が大きく変化する中、組合員や地域の皆様へより一層貢献できる業務提携のあり方について検討を進めています。詳細につきましては、今後理事事に報告の上、広報紙等でお知らせしていく予定です。

